

教育現場で新聞を活用するNIEを考える「第30回NIE全国大会神戸大会」(日本新聞協会主催)が7月31日から2日間、神戸市で開かれた。スローガンは「時代を読み解き、いのちを守るNIE」。交流サイト(SNS)を中心に情報があ

ふれる中、正確な情報を得て思考力や判断力を養う道筋や、新聞報道の在り方を考えた。全国の教員ら約1800人が参加した大会を3回にわたって詳報する。

(石川美咲)



パネル討議(前半) 選挙報道とSNSの現状

解説や説明 新聞の使命

①

司会

ジャーナリスト

■パネリスト

ジャーナリスト

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授

西宮市立浜脇中学校主幹教諭

神戸新聞社論説副委員長

池上 彰さん

古田 大輔さん

阪本真由美さん

渋谷 仁崇さん

長沼 隆之さん

ネット情報には偏りも

初日のパネル討議には、ジャーナリスト、教育者、新聞記者が登場。「情報でいのちを守る」と題し、それぞれの立場から新聞活用の可能性や情報化社会の課題を探讨了。前半は、選挙報道とSNSの現状を議論した。

◇ 池上 昨年の兵庫県知事



池上彰さん



古田大輔さん



阪本真由美さん



渋谷仁崇さん



長沼隆之さん

選と今夏の参院選をどう受け止めたか。古田 人は経験に基づき、無意識に非合理的な考えをしつづける。間違った情報を間違っていると認識するのは難しく、自分の価値観に近い情報を正しいと思うがちだ。インターネットにある大量の情報から、アルゴリズム(計算手法)

長沼 兵庫県知事選では県民に分断と対立が広がった。選挙期間中は中立性や公平性を意識したことで報道に空白が生じ、有権者はその間にSNSや動画サイトで多くの情報を受け取った。質と量ともに十分な発信ができなかった反省と教訓に基づき、神戸新聞では

参院選で本格的にファクトチェックに取り組んだ。選挙公報に載っている候補者の公約や実績を取材班がチェックし、正確なものがミステイクなのか虚偽なのかを調べた。参院選の後半に争点に浮上した外国人政策を巡る言説や情報も、正しい情報をデータに基づいて提供した。

古田 選挙公報のファクトチェックは素晴らしい。全国メディアは対象数が多い過ぎてできない。ローカルメディアだからこそできることで、役割を果たしている。

古田 ソールを活用するべきだ。誰でも無料で使える「グーグルトレンド」を見れば、検索されている言葉や関連キーワードから今、人々がどんな情報を求めているのが分かる。そこに対応し、解を届けることが非常に重要だ。

池上 テレビのニュースでもトレンドが出るが、「こいつのみんなが知りたがっている」で終わっていた。新聞社には、積極的に解説や説明をする攻めの姿勢が求められる。

県内実践校教員の声



プレゼン力に感心

四国中央市立北小学校 橋波つかさ教諭
メディアリテラシー育成にNIEは重要だと感じた

大会だった。おすすめる記事を紹介する「シニアバトル」の公開授業では児童のプレゼン力にも感心した。日ごろの積み重ねあつての成果だと思うので、日ごろから新聞に触れ続けることが大切だと感じた。

ジャーナリスト、教育者、新聞記者が登壇した7月31日のNIE全国大会神戸大会のパネル討議。テーマは「報で、いのちを守る」の後半は、大規模災害時の情報発信や取得の留意点、NIEが記憶の継承に果たす役割について意見を交わした。

◇ (石川美咲)

池上 大規模災害時に何をどう伝えていくのか、私たちが考えるべきことは何かを議論したい。学校でどのような取り組みをしているのか。

渋谷 1995年の阪神淡路大震災のときは高校生で、西宮市で被災した。当時は何もできず、もどかしい思いをした。子どもたちには自分ごととして考えてもらおうとNIEに取り組んでいる。東北の中学生が東日本大震災の被災者に取材し、当時の様子を記事にする。河北新報社の取り組みを活用。記事を読み、自分たちの街をどうしていけば

組織力で事実積み上げ

いかに考える授業を4年前から続けている。

阪本 阪神大震災から30年たち、街もきれいになると、震災の被害や復興が見えにくくなる。学生から「復興って何？」と聞かれたこともある。震災前を知らない、震災前を教える手がかかりになるのは新聞だ。震災当日に起きたことを生きた人の立ち位置で見せてくれる。

池上 震災の継承のため、神戸新聞が地元紙として取り組んでいることは、長沼 当時、情報がライフレインと言われた。紙のメディアは被災地に頼りにされ、私たちもそれに応えようと報道した。神戸新聞NEXTで、震災後の歩みの写真や記事を公開



災害時の情報発信や記憶の継承にNIEが果たす役割について議論したパネル討議＝7月31日、神戸市

過去から学び記憶継承

し、記録の形で記憶を塗り、忘れさせないようにしている。

池上 災害時には、いた

ずらレベルから金もつけ狙いまで誤情報が多く出る。だまされない方法は、古田 誤情報という交流サイト(SNS)を思い浮かべがたが、拡散方法で圧倒的に多いのは口コミ。悪意ではなく、興味深いか、重要だと思ったからという善意で広がっていく。対策として、発信源・根拠・関連情報の3点だけは確認してほしい。関連情報とは、その情報を知っている人物や組織が発信している情報のこと。災害時に情報が集まるのは消防や警察、自治体、国、これらに直接取材をした報道機関だ。簡単にできることなのでぜひ確認してほしい。

池上 メディアの最大のテーマは、命をどう守るか。健全な社会をつくる上で必

要な取り組みやNIEの果たす役割とは。

阪本 南海トラフのような災害は繰り返される。過去の災害から学びを得ることは大事だ。例えば、100年前の災害をたどる手がかりは当時の写真や新聞記事しかない。紙媒体でしかたどれない過去の災害の記憶は多く、新聞は大切な役割を担っている。

渋谷 本校では「まちづくり」をキーワードに自分たちの街をどうしたいかを新聞記事を読んで考えている。新聞で社会課題を知り、知識や人間の幅が広がっていき、新聞を読むときに「まじつくり」に何かいいアイデアないかな?とヒントを出して読ませると、生徒はいろんな視点でとらえてくれる。

古田 20年近く前から紙の新聞は読まれていない。今本当に知りたいのは、ス

マートフォンで正確な情報を得る方法。新聞紙を読むだけでは身につかない「教育に新聞を」ではなく「教育にニュースを」への転換が必要だと思う。

長沼 私たちの最大の武器は、組織力を生かした丁寧な取材によるファクトの積み上げだ。事実とそうでないことを示し続ける役割がある。地元紙が事実確認のよりどころだと思っ

池上 一番大事なことは、さまざまなニュースを正確に速く広げ人に伝えること。インターネット上の情報にも不純物があり、今は転換期だ。正確な情報を得て、どのように解釈、理解するか。メディアや教員の今後の課題になると思う。

■司会

ジャーナリスト

■パネリスト

ジャーナリスト

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科教授

西宮市立浜脇中学校主幹教諭

神戸新聞社論説副委員長

池上 彰さん

古田 大輔さん

阪本真由美さん

渋谷 仁崇さん

長沼 隆之さん

県内実践校教員の声



判断力の育成実感

松山市立旭中学校

本田智珠教諭

新聞記事に感想や意見を書く「NIEノート」の取

り組みを続ける中学校の生徒は、目からうろたえるような情報に触れて判断力が育っていた。生徒にどれだけ新聞に触れてもらうかが重要。周囲の先生も巻き込み、子どもたちの成長につながる取り組みをしたい。